

September 7, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、3日ぶり反発 NY市場は狭いレンジのみ合いに終始**

6日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反発。終値は109.86円と前営業日NY終値(109.71円)と比べて15銭程度のドル高水準だった。欧州序盤に一時109.95円まで上昇した影響が残った。

NY市場に限れば狭いレンジでのみ合いに終始した。米国とカナダ市場がレーバーデーで休場だったため、市場参加者が激減し商いは低調だった。NY時間の安値は109.83円、高値は109.89円で値幅は6銭程度と非常に小さかった。

なお、ナイト・セッションの日経平均先物は大証終値比450円高の3万0200円まで上昇し、4月6日以来約5カ月ぶりの高値を付ける場面があった。

ユーロドルは5日ぶりに反落。終値は1.1870ドルと前営業日NY終値(1.1880ドル)と比べて0.0010ドル程度のユーロ安水準だった。24時前に一時1.1858ドル付近まで下げる場面もあったが、欧州時間に付けた日通し安値1.1856ドルが目先サポートとして意識されると買い戻しが優勢に。2時過ぎには1.1872ドル付近まで持ち直した。前週末に8月米雇用統計を消化し、本日は米国市場が休場となったため、積極的な取引は手控えられた。NY時間の値幅は0.0016ドル程度と小さい。

ユーロ円は小反発。終値は130.39円と前営業日NY終値(130.31円)と比べて8銭程度のユーロ高水準。24時前に一時130.25円と日通し安値を付けたものの、2時過ぎには130.40円台まで値を戻した。ユーロドルと似た動きとなった。

スイスフランはNY序盤に売りが強まる場面があった。対ユーロでは一時1.0880スイスフラン、対ドルでは0.9169スイスフラン、対円では119.82円まで値を下げた。先月26日や30日にはスイス中銀(SNB)によるスイスフラン売り介入の噂が流れており、市場ではSNBによる為替介入への警戒感がくすぶっている。

**【本日の東京為替見通し】日経3万円回復してもドル円はレンジか、RBA後の豪ドルの動き要警戒**

本日の東京時間のドル円はもみ合いとなるか。ナイト・セッションの日経平均先物が3万円台を回復したことは、ドル円の一定の支えとはなるだろう。しかし、株式市場と為替市場だけを結び付けてトレードするような時代でもないことで、大きくリスクオンに傾くほどの相場にはなりにくい。昨日も110円にも届かない動きだったことを考えると、どの水準でも上昇局面では売り、下落局面では買いが優勢になりそうだ。また、本日のNYカットで110.00円のオプションがあることも値動きを狭めるか。もっとも、NY勢が休場明けとなることで、米金利の動きが活発になることが予想され、米金利次第で為替市場も神経質な動きにはなると思われる。

本日は、現時点での米連邦準備理事会(FRB)関係者の講演予定がないことで、米国については政治状況へ目を向けておきたい。米与党・民主党内でバイデン米大統領の求心力が低下していることで、インフラ投資法案の今後の行方に黄色信号が点灯していること、近々バイデン大統領が来年2月に任期満了を迎えるパウエルFRB議長の再任を認めるか否かを発表すると憶測が流れていることなどは、直接為替相場に大きな影響を与えることになりそうだ。また、明日から、ブラックアウト期間に入る11日までの間に複数のFRB高官の講演が予定されていることで、市場がどのようなリスク許容度を持ち講演に臨むかなども注目される。なお、本日は米3年債の入札が予定されている。

ドル円は大きな動きを期待するのは難しいだろうが、本日は豪準備銀行(RBA)理事会が予定されていることで、豪ドルの動きには警戒したい。政策金利や3年債利回りの目標水準の変更はないとの予想だが、注目は声明文になる。RBAは8月の声明文で「9月上旬まで週50億豪ドル、その後少なくとも11月中旬まで週40億豪ドルの割合で国債を購入し続ける」としているが、市場では「9月上旬以後も週50億豪ドルの国債購入を継続する可能性」との思惑も台頭している。

欧州勢参入後には、欧州から複数の経済指標の発表が予定されている。今週は9日に欧州中央銀行(ECB)定例理事会が行われることで、ユーロも欧州勢参入後は激しく動く可能性もある。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:30 ◇ 7月毎月勤労統計（現金給与総額、予想：前年比0.4%）
- 08:30 ◇ 7月家計調査（消費支出、予想：前年比2.9%）
- 08:50 ◇ 8月外貨準備高
- 14:00 ◇ 7月景気動向指数速報値（予想：先行103.5／一致94.3）

## &lt;海外&gt;

- 08:01 ◇ 8月英小売連合（BRC）小売売上高調査（予想：前年比3.2%）
- 未定 ◎ 8月中国貿易収支（予想：510.5億ドルの黒字、3463億元の黒字）
- 13:30 ☆ 豪準備銀行（RBA）政策金利発表（予想：0.10%で据え置き）
- 14:10 ◎ マン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 14:45 ◇ 8月スイス失業率（季節調整前、予想：2.8%）
- 15:00 ◎ 7月独鉱工業生産（予想：前月比0.8%／前年同月比5.1%）
- 16:30 ◎ サンダース英 MPC 委員、講演
- 18:00 ◎ 9月独 ZEW 景況感指数（予想：30.0）
- 18:00 ◎ 9月ユーロ圏 ZEW 景況感指数
- 18:00 ☆ 4-6月期ユーロ圏域内総生産（GDP）確定値（予想：前期比2.0%／前年比13.6%）
- 18:30 ◎ 4-6月期南アフリカ国内総生産（GDP、予想：前期比年率2.5%／前年同期比17.5%）
- 8日 02:00 ◎ 米財務省、3年債入札
- ブラジル（独立記念日）、休場

8日

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◎ 7月国際収支速報
- 08:50 ☆ 4-6月期実質国内総生産（GDP）改定値

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

6日 15:59 ルメール仏経済・財務相

「現在の高いインフレ率は一時的であり、継続していくとは思えない」

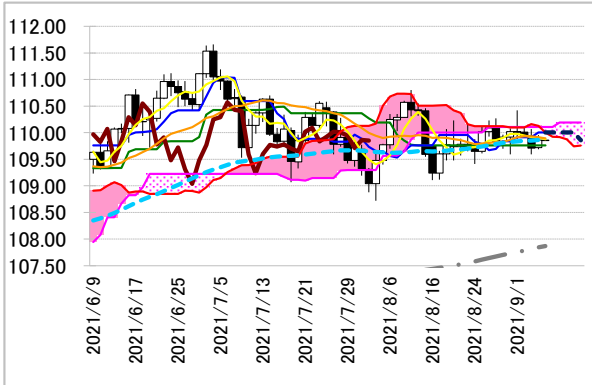
7日 02:15 フロスト英国務相

「英政府は、現在の基準で北アイルランド議定書を継続する」

「継続内容には、現在有効な猶予期間や地役権も含まれる」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

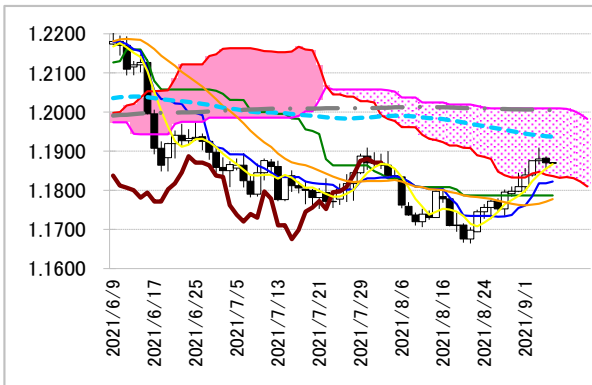


### <ドル円=転換線が目先の重しとなるか>

上影小陽線引け。一目均衡表・雲のねじれ 110 円付近で、同大台回復を試す様相もうかがわせたが叶わず。109 円台で戻りが鈍い。

110.01 円へ上昇した一目・転換線に追随できず、ここで頭打ちとなる可能性がある同線が目先の重しとなるか。8月24日・16日安値など、109円台に位置する下値のポイントを探る展開を想定する。

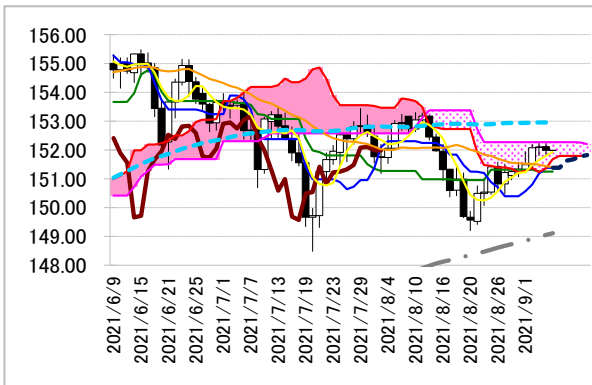
レジスタンス 1	110.42(9/1 高値)
前日終値	109.86
サポート 1	109.41(8/24 安値)
サポート 2	109.11(8/16 安値)



### <ユーロドル=5日線付近の下げ渋りが続くか>

下影小陰線引け。先週末3日に上値の重さを示す長い上ひげをとともう足型を形成し週引けた後を受け、下値を探る動きとなった。しかし、目先のすう勢を示す短期・5日移動平均線前後で下げ渋っている。同線は本日 1.1860 ドル台へ上昇。5日線を支えに、先週末とどかなかった 1.1930 ドル台の90日線を再び試す展開へ転じるか見定めたい。

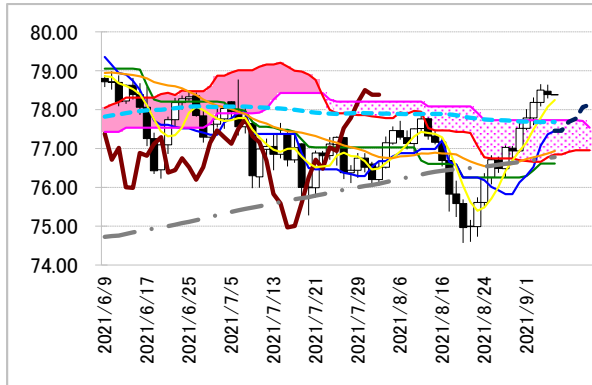
レジスタンス 1	1.1937(90日移動平均線)
前日終値	1.1870
サポート 1	1.1822(日足一目均衡表・転換線)



### <ポンド円=雲下限や転換線を支えに雲上限試す展開継続>

下影小陰線引け。一目均衡表・雲の上限 152.27 円前後の攻防。同水準を先週末に 152.30 円まで上昇した時と同様、昨日も 152.28 円と同水準をわずかながら上回った。抜けきれないが、下押ししても上昇中の雲の下限や一目・転換線がサポートとなり、雲の上抜けを試す展開は続くとする。

レジスタンス 1	152.56(8/13 高値)
前日終値	151.99
サポート 1	151.38(日足一目均衡表・転換線)



### <NZドル円=高値もみ合い、下押ししても雲が支え>

小陰線引け。先週末3日に 78.65 円をつけて以降、78 円台で高値もみ合い。7月6日以来の水準に到達して上昇の流れはやや停滞している。78.25 円前後で推移する 5日移動平均線の上昇をともない、再び上値を試す展開を想定する。いったん下押ししても一目均衡表・雲の上限が支えとなり、今後雲の上抜けが想定される一目・転換線の上昇とともに再び上値トライできるだろう。

レジスタンス 1	78.77(7/6 高値)
前日終値	78.38
サポート 1	77.73(日足一目均衡表・雲の上限)

